

腹囲が基準値以上であることと、食べる速さ、運動の充足感、麺類のスープを飲む、肉の脂身を好むことに関連から見られた。以上より、腹囲とリスク要因、生活習慣の関係は、性・年齢階級別に特徴が見られるが、メタボリックシンドローム対策として、食習慣と運動の改善により腹囲の適正化を促す上で重要な関係が示唆された。

- 1) 国立保健医療科学院 人材育成部
- 2) 鴨川市健康管理課

(32) 喘息・アレルギー保有の性差 ～千葉県県民健康基礎調査による検討～ 柳堀朗子、永山洋子¹⁾、一戸真人：第18回日本アレルギー学会春季臨床大会，東京，2006

平成15年の千葉県県民健康基礎調査において喘息やアレルギー疾患の保有が女性に多かったことを報告したが、喫煙、年齢等の既存の関連要因を含めた検討は不十分であった。そこで、基本属性が得られた回答の喘息・アレルギー疾患の保有と喫煙、年齢、身長を関連を検討した。アレルギー疾患保有率は男8.6%、女14.8%、気管支喘息保有率は男1.7%、女3.9%であり、アレルギー疾患は25～64歳、気管支喘息は45～64歳で女の保有率が男より有意に高かった。喫煙者と非喫煙者の気管支喘息、アレルギー疾患の保有率の差は女が男より大きく、女で喫煙との関連が強い可能性がうかがわれた。二項ロジスティック解析の結果、アレルギー疾患、気管支喘息とも性別が最も強く関与し、年齢はアレルギー疾患保有のみ有意に関連、喫煙と身長はいずれにも有意な関連はないことが示された。以上より、アレルギー疾患、喘息の保有には性差があり、女性は男性よりも保有率が高いことが示された。

- 1) 千葉県健康福祉部

(33) 高校生における骨量評価値と生活習慣の関連 柳堀朗子、茂野誠一、須田和子、小林八重子、一戸真人、市川滋子¹⁾、石原徳子¹⁾：第45回千葉県公衆衛生学会，千葉，2007

思春期にある児童、生徒の踵骨骨強度と形態、生活習慣の関連を、千葉県内の小学5年、6年、中学2年、高校2年の児童、生徒19,636名の踵骨骨強度値（音響的骨評価値：OSI）により検討した。踵骨骨強度は男子では学年進行とともに大きく増加したが、女子では中学2年から高校2年の増加は鈍化していた。踵骨骨強度は身長、体重、BMIと有意な正相関を示したが、相関係数の大きさは学年、性により異なり、小学6年、中学2年で各指標との関連が強く、男女の二次成長の違いや発達速度の違いが関連していると考えられた。生活習慣では、運動習慣の有無は多くの学年において踵骨骨強度と関連がみられたが、乳製品や牛乳の摂取等の食生活については踵骨骨強度との関連は明確ではなく、思春期の骨強度を高めるには運動が重要であることが示唆された。

- 1) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課

(34) インターネットを活用した健康・医療・福祉の情報提供について—県民の情報入手および要望についてのアンケート調査から— 小林八重子、須田和子、柳堀朗子、茂野誠一、一戸真人：第45回千葉県公衆衛生学会，千葉，2007

「健康福祉リソースセンター事業」において健康・医療・福祉に関する情報提供について質問紙調査を実施した。健康・医療・福祉に関する情報をインターネットで入手している者は3割弱であった。インターネットによる健康医療福祉分野の情報提供には、利用環境の整備、情報入手方法の周知、正確でわかりやすい情報、利用者の関心やニーズに沿う情報や機能等の提供が重要と考えられた。

(35) アンケート調査へのマークシート方式導入の検討、スキャナーとOMRソフトの使用について 茂野誠一、石井信子、小林八重子、須田和子、柳堀朗子、一戸真人：第45回千葉県公衆衛生学会，千葉，2007

保健福祉分野のアンケート調査におけるマークシート方式を導入するための条件および問題点の検討を行った。光学式マーク読み取りソフト（OMRソフト）と安価なドキュメントスキャナーを用いることで、高価な読み取り装置と専用のマークシート用紙を用いずにマークシート方式のアンケート調査が実施できることが確認された。

(36) 千葉県における基本健診データ収集システムの確立事業について（第3報） 須田和子、一戸真人、大木美和子、小林八重子、茂野誠一、柳堀朗子、木下寿美¹⁾、山崎静江¹⁾：第45回千葉県公衆衛生学会，千葉，2007

老人保健法に基づく基本健診の検査結果は、検査機器や測定法等の違いにより有効利用されていない現状にあるが、標準化することにより、他市町村との比較や住民の生涯にわたる健康増進の資料として活用できる可能性を持っている。千葉県では、市町村が実施している基本健康診査の貴重なデータを有効活用できるようにするため、県内市町村の健診結果を標準化するシステムを構築し、本事業を実施してきた。今年度は、複数年度の検査結果から経年変化を明らかにすることと、前回の発表で課題として挙げた中性脂肪の食事による影響を明らかにすることを目的とした。

- 1) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課

3) 著書

(1) 永田知子（共著）ほか、動物用医薬品データブック2006 Databook of Veterinary Drugs 林純薬工業株式会社発行、監修：中澤裕之、堀江正一（平成18年11月）